



第35号

## 地域生活を支えるヘルパーと、セーフティネットの必要性



4月はじめの土曜日、毎年恒例のお花見会を開催しました。このお花見は市民団体の

頃からですから、もう20年以上毎年欠かさず行っています。震災の年にも「ともの拠点は全壊になったけれど、こんな時だからこそみんなで集まり元気を出そう!」と力を合わせて開催し、今回まで続いています。今年も、新しく「とも」の仲間になってくれた新入職員たちを含め、たくさんの利用者さん、関係者の皆様、地域の方々が集まり、満開の桜をみんなで愛でながら、ダンスあり歌ありの楽しい時間を持つことができました。このお花見に集う人たちのように、いろいろな人がいて、みんながそれぞれの個性を発揮し、大変なことがあってもみんなで笑いあえる地域であつたら良いなと、あらためて思いを強くしました。

2014年度も「とも」は24時間365日の支援とひとりひとりの権利が守られ、ご本人にとって必要な、質の高い支援を提供することを念頭に置き、職員一同力を尽くしてきました。

「とも」の利用者さんはゼロ歳からご高齢者まで、そして障害種別も問いませんので、ほんとうに様々な方の多様なニーズに対応するため、あらゆる時間帯で、様々な形態での支援を提供させていただきました。

ご利用いただいたみなさんをはじめ、様々なお立場の方々にたくさんのご支援いただきましたことを、心よりお礼申し上げます。

～地域生活を支えるヘルパーと  
セーフティネットの必要性～

浦安市では、重い障がいの方も地域で暮らせるようにと施策が展開されています。2014年度からは就労を含めた通所施設と日中一時事業には、重い障害がある人への重度加算がつくこととなり、運用されています。

今後の課題としては、ヘルパーなどの個別支援をどのように確保していくのかなどを、自立支援協議会でも現在議論しています。家族との暮らし、自宅でのひとり暮らし、グループホームでの暮らしなど、どのように選んだとしても、地域で暮らすためには、やはり、夜間・早朝や休日の支援を含めた、24時間365日稼働するヘルパーとセーフティネットの構築は必須です。通所施設や日中一時支援事業と同様に考える必要があるのではないかと考えています。

「とも」は、地域の声になりにくい、でも切実なニーズを身近に知っている事業者の一つではないかと思っています。本当にどんな障害のある人も地域で暮らし続けるためには、24時間365日の支援が地域には必要であること。さらにセーフティネットの構築の必要性を伝えていくことも、法人としての大きな役割の一つです。

利用者さんの声に真摯に耳を傾け、私たち自身が根拠をもって、これらの事業やサービスの必要性や改善点を正確に伝える努力を、地域で暮らす障がいがある方たちと職員一同で協力しながら、これからも続けていきたいと思っています。



理事長 西田 良枝



## 浦安市役所新庁舎建設工事 ユニバーサルデザイン意見交換会に参加して

障がいのある方を支援する立場の代表として、浦安市役所新庁舎建設工事ユニバーサルデザイン意見交換会に参加させていただきました。

3回に分けて催された会議では現在予定している設計を確認し、その内容についてグループに分かれ意見を出しました。私たちは、“各階の多目的トイレには多目的シートを設置して欲しい”“玄関の車寄せには車椅子の方が乗り降りできる場所をつくって欲しい”

“医療的ケアをする場合に物品を洗うことができるよう、食堂には洗面台を設置して欲しい”など日々支援させていただく中で感じていることから意見を出しました。当事者やそのご家族からも“聴覚に障がいがあると災害時エレベーターに閉じ込められると外部と連絡を取り合えないため困る、モニターで手話通訳とやりとりが出来ないか”“障がい福祉関係の窓口近くに個室で落ち着ける場所があるとよい”など多くの意見が出ました。ここで出した意見は市の担当の方が検討するという事となり、次の会議で意見に対して一つ一つ回答がありました。

意見交換はファシリテーター役の人もいて話しやすかったのですが、残念だったのは、設計はある程度まで決まってしまうと、変更が出来ないこともあった事です。私たちが出した主な意見は、重い障がいがあっても社会参加するために必要なトイレのことも

です。それらを何とか理解してもらいたいと思い、実際の図面の確認や採用して欲しい器具を調べた上で、意見を添えて提案させていただきました。

他にも、庁舎の壁等に設置予定のサインについて意見交換が行われました。文字の大きさや色、デザインによって見えやすさが変わってきます。漢字にルビを振るかどうか検討しました。

多くの市民が利用する新庁舎建設にあたり、このような発言の機会を設けて頂いたことで、誰もが使いやすいように配慮が出来たのではないかと思います。意見交換の中で、それがなぜ必要か？利用頻度が少ないのでは？と考える方もいたと思います。しかし、市役所に行きたいと思ってもトイレが使えない状態では障がいをお持ちの方たちは安心して利用できません。障がいをお持ちの方でも安心して利用できる配慮がされていれば、誰にでも優しく使いやすい場所になります。そういったことを人びとに理解してもらうために、私たちは地域の中でケアを行っていく支援者としてだけでなく、経験を活かした「発信者」になっていくべきだと、今回の意見交換会に参加して改めて思いました。



## 自立支援協議会報告

### 【浦安市自立支援協議会について】

平成26年12月4日以降に開催された会議についてお伝えします。

### 【こども部会】

平成26年12月4日、平成27年2月24日に開催。12月の会議では、幼稚園・保育園に通うこどもたちへの配慮について現場の先生方からお話があり、議論が行われました。2月の会議では、平成26年度文部科学省委託事業である浦安市インクルーシブ教育システム構築モデルスクール事業についての詳細報告がありました。

### 【相談支援部会】

平成26年12月17日、平成27年2月17日に開催。12月

の会議では、児童のサービス等利用計画について、ライフステージの将来像が意識されているか等意見交換を行いました。2月の会議では、計画相談における利用者ご本人で作成するセルフプランの現状について議論をいたしました。

### 【合同部会】

平成26年12月25日に開催。各部会について、各リーダー或いはサブリーダーから、活動報告が行われました。また、基幹相談支援センターから、上半期の実績報告と、本人部会の事務局としての活動報告を行いました。

### 【地域生活支援部会】

1月19日に開催。「訪問介護事業所実態アンケート」の結果を基に、5つの課題を整理し、サービス形態別のサービス報酬を試算したデータなどの具体的な現状を



## ～平成27年度、「ふあり」はさらに工夫を加えて、子どもたちに様々な経験の場を提供します!～

平成26年度はふありにとって、新しいことを多く開始した年でした。学校や自宅への送迎、専門職員（言語聴覚士・理学療法士・作業療法士）の配置、親子分離の集団療育の充実などなど・・・そして平成27年度は、という、療育的視点をもったグループを更に充実させ、参加いただく方を選んでいただけるような工夫をしたいと思っています。

運動が苦手、もっといろいろな経験をさせたい、保護者同士がもっとつながりたい、など目的にあった内容を実施します。そしてどの子どもたちにも共通しているのがお友達と上手に関われるようになってほしい、という目標。小グループ療育の数を増やし、関わりを学んでいきます。

そしてもう一つは一人ひとりに合った個別の機能訓練。言葉に関するご相談はとて多く、乳幼児～学齢期にまでわたります。じっくり言語聴覚士とやり取りをする中で、発達をうながしていくことと、日ごろの生活の中でできることをお伝えしたり、保護者とのやり取りを通して日頃の変化、気づきを聞き、お子さんの

気になるところと一緒に共有していきます。

最後に子どもの発達に大事なことは、多くのことを体験したり、たくさんの人と関わったり、一緒に感じる共通体験をしたりすること、だと考えています。感情が動き、楽しい、悲しい、悔しい、うれしい、など感じる事が情緒にも影響してきます。ふありでは、春夏秋冬の行事を大切に、遠足やイベントなどお楽しみもたくさん用意しています!!

ご家族と一緒に子どもたちの療育にとりくみ、成長を喜び、子どもの笑顔を大事にしていきたいと思っています



分析いたしました。その分析を基に、ヘルパーの人材不足に対する改善案を提案し議論を行いました。

### 【権利擁護部会】

1月28日に開催。障がいのある方への配慮について、商工会議所・浦安警察署・明海大学での取り組みをそれぞれの団体の方に発表していただきました。

### 【自立支援協議会】

2月13日に開催。次期（平成27・28年度）の自立支援協議会の議題や、組織のあり方について、議論を行いました。

### 【本人部会】

2月19日に開催。ヘルパー不足について議論した地域生活支援部会に対しては、「（訪問介護の）現状を知ってびっくりした」、「改善策が見えているなら、何

とか浦安市として予算的に改善策を実現する方法が無いものか」などのご意見が出ました。また、次年度の本人部会については、「障がいがある当事者が話をできる場があることは、良いこと。こういう場が無いと、市役所と自分たちが思っている事が離れてしまう気がする」、「自分たちが本人部会で質問したことが、具体的にどのように自立支援協議会で議論されて、どのように解決されているのかを知りたい」という意見が出ました。





## 法人本部

26年度も昨年度に引き続き皆様方のご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

事業面では新たに「指定障がい児相談事業所ふあり」を開始し、順調に立ち上げることができました。また例年の通り、理事会・評議員会の開催・運営、多様な研修を通じた人材育成、就職フェア等に参加しての人材確保に取り組みました。人材育成のための研修には延520回、1,732名が参加し、介護や相談など専門職スキル向上のための研修や制度・倫理に関する研修を行いました。常勤職員全員を対象とする宿泊研修を3年振りに再開し、43名が参加して組織におけるコミュニケーションとチームワークの重要性について学びました。職員採用ではリクルート用に法人の魅力をコンパクトに紹介するDVDをリニューアルして就職フェア会場で上映し、参加者より好評を得ました。

その他、昨年度に引き続いての各種助成金申請、とも通信発行による法人活動の紹介の他、職員の福利厚生の一環としては健康診断、産業医による個別健康相談等を実施し、利用者の方々を支援する職員の健康をサポートしました。

27年度も引き続き、地域に根ざしたサービスの提供に取り組んで参ります。

## 就労支援事業

浦安市斎場売店の運営も、今年で10年目になります。

年を追う毎に火葬件数が増加していく中で、当事者職員の作業も増えて忙しい毎日ですが、日々経験を重ねることで作業の意味を理解し、自分の仕事を手際よくこなしています。

また場内で働く人たちや出入り業者の人たちと、きちんと挨拶を交わす事等、社会人として恥ずかしくない礼儀やマナーを身につけることで、常勤職員として雇用されていることに誇りを持ち、それが仕事へのモチベーションを高めることに繋がっています。

誰でもそうですが、仕事にトラブルはつきものです。どのような場面に出くわしても、ともは法人全体で支援しています。

一人一人の目標を達成できるように、これからも私たちは支援していきます。



## 基幹相談

平成26年度は、基幹相談支援センターにとって2年目の年でした。皆さんもご存知の通り、基幹相談支援センターの業務は、個別の相談対応と地域の相談体制を強化するための取り組みである基幹事業です。

個別の相談業務を振り返ると、平成27年2月末時点での相談利用者実人数が250名に達し、前年度比46名増でした。計画相談支援も本格的に動きだし、基幹相談にも計画作成の依頼が多く入り、2月末時点での契約人数は104名で、浦安市全体の約12%の計画相談を担当しています。

基幹相談が担当する計画相談支援の利用者さんは、複数の障害福祉サービスを利用され、訪問介護につい

ても4、5事業所を利用される方が多くいらっしゃいます。サービス提供事業者との連携は支援の要ともなり、相談員は、訪問、会議、電話やFAX、様々な手段を活用しながら、事務作業が増えがちな計画相談支援においても、相談支援の本質業務、「会う聞く話す分析する」を実践してきたとも言えます。

基幹事業については、前年度同様、地域の関係機関の皆さんと共に学べる機会の提供に尽力し、相談支援スキルアップ講座、講演会、事例検討会等を開催しました。中でも、2月25日に開催した講演会「僕から見える世界～自閉症の僕が飛び跳ねる理由～」には、障がいのある当事者、その家族、行政、医療、福祉、教育分野の多くの支援者の皆さんが一堂に会して、東田直樹さん、美紀さん（母）のお話を聞くことが出来ました。



## 浦安市身体障がい者福祉センター

当センターは、生活介護と機能訓練（自立訓練）を行う多機能型事業所と地域活動支援センターの事業を行っています。

平成26年度は、多機能型事業所の新規登録者が3名増加し、これを含めたセンター全体の延べ利用者数は28%増加の3,621人となりました（2月までの11か月間対比）。

活動面では、これまで試作と練習を重ねてきた多機能型事業所の生産活動を本格化し、販売を開始しました。ビーズブレスレット、アクリルたわし等の4種からはじめ、その後カラフルなマスクなどを追加、販売拠点は当「浦安市身体障がい者福祉センター」と「新浦安駅前ほっぷ」の2箇所です。福祉フェアにも1月に初めて出店、市民の方に数多くお問い合わせいただき、大いに利用者の励みになりました。新年度は出店回数を増やしていく予定です。

また、調理プログラムと外出プログラムの充実と共に、リハビリには余暇支援を兼ねてボッチャを取り入れました。自立訓練ご利用者はこの一年間で職員も敵わないほどに上達され、自立への手応えをご本人も職員も感じております。

センター全体の行事であるバス旅行は、本年度も

2回、お台場でのカラオケと江戸東京博物館見学に行きました。特に、これまで遠出が難しかった生活介護ご利用者が初めて参加できたことは、ご利用者、ご家族と職員にとって大きな喜びと励みになりました。来年度は年4回に増やす予定です。

新年度は、喀痰吸引等の特定事業所として登録される運びで、医療的ケア提供機能が充実します。また、支援計画作成においては、より適切な目標を設定し、達成感・充実感を高めていただけるよう、ケース会議の充実と職員のスキルアップに注力します。



※「生産活動」で利用者さんが手作りの商品は、当センターと「新浦安駅前ほっぷ」、また地域の催しに出店して販売しています。

参加者からのアンケートは回収率78%で、感動して涙が出た、勇気をもらった、当事者の声が聴ける講演会を期待したいという声が寄せられました。様々な立場の人たちが、東田さんの講演会を通して共通体験を持つことが出来たことは大変に意義深いと感じています。

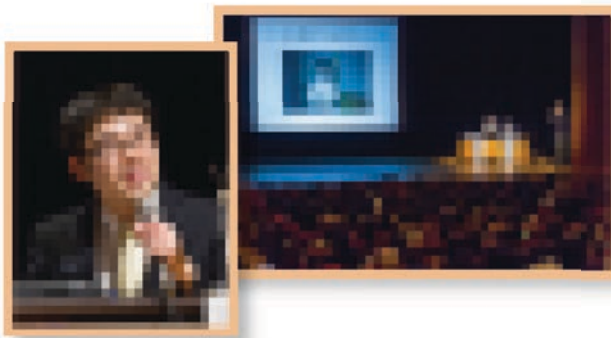
平成27年度は、基幹相談開設3年目に入ります。少しずつ、基幹相談の認知度も上がり、地域の皆さんとの繋がりも深まってきたと感じてきます。

今年度も、引き続き、地域の多様な社会資源のネットワーク化を促進する連携会議、相談支援専門員の現場の困り感を議論する実務者会議や講演会を開催します。

初めての試みとして、実際にサービス等利用計画を作成している相談支援専門員を対象に事例検討会を行います。多忙な業務の合間を縫ってご参加いただけるよう

に、今年は平日の午後から夕方に事例検討会を設定する予定です。アットホームな雰囲気の中、お互いを支えあう一環として、地域の社会資源の情報交換を含めて、皆で研鑽できれば嬉しく思います。

地域にとっての「みんなの基幹」となるべく、平成27年度も職員一同、頑張りますのでどうぞ、よろしくお願いいたします。





## 相談支援事業所 ふあり

昨年7月に開所した相談支援事業所ふあり。社会資源の紹介やご本人、ご家族の希望する生活を叶えるために、どのようなサービスがどのくらい必要かを一緒に考えて組み立てます。そこには、ひとりひとりの目標が設定されます。関わる事業所や行政機関、教育機関などがその目標を共有し、同じ方向に向かって支援していくことで遠くに思える目標に一步一步近づいていきます。

平成27年度は今まで計画を立てている方には、今のプランがご本人の困り度や必要性に合致しているか、気持ちに寄り添いながら、継続していきたいと考えます。新規の方には、しっかりとニーズを聞き取り、希望する生活に向かって歩んでいけるようにプラン作成をしていきたい!!と思っています。

## パーソナル・ケアセンター

平成26年度のケアの傾向としては、小さい頃からヘルパーを利用して下さっている利用者さん達が成人され、それぞれお仕事をしたり通所施設に通うようになった事で、仕事のお休みなどに余暇の外出を楽しんだり、今後の自立に向けてヘルパー利用による家族以外の人との在宅での入浴介助や、外出時の支払いなどで店員さんとのやりとりを経験したりと、生活に即した内容のケアが増えてきたように思います。

逆に低年齢の利用者さんは少なくなってきています。小さい頃から家族以外の人とも関わる事は、子どもたちにとって大切なコミュニケーションの経験になります。思春期になった時に始めてヘルパーを使いたいという方は、小さい頃から利用されていた方とは対応が異なり、ご自身も負担を大きく感じると思います。また、ケアを利用されている間はご家族の息抜きの時間にもなると思いますので是非ご利用して頂きたいと思います。

パーソナルケアセンターは平成26年度、人材の確保・育成という事に力を入れていきました。それらは今後も継続していく目標です。

また、成人を迎えた方たちの住まいの問題という事があります。個別の支援で培ったスキルをいかに、住まいの場の提供という事が出来るようになればと思っています。

平成27年度もお一人おひとりに合わせた個別の支援を提供し、在宅生活を支えていきます。

## 療育事業

社会福祉団体のときから、子ども達に様々な経験やひとりひとりにあった療育が選べるように、質のよい療育を実施してきました。

講師も専門性が高く、療育に関して意識の高い先生方に来ていただき、今に至っています。

平成27年度も造形教室、ムーブメント療育、音楽療法、療育・手づくりパン教室、クレヨン教室、イルカスイミング、卓球教室を実施いたします。

障がい者手帳や受給者証を持っていないけれど、人との関わり方やコミュニケーションに少し問題があったり、知的に少し遅れがあったりする方も、希望があれば体験や見学をしたうえで参加いただくこともできます。



発達をうながしたり療育的效果をあげるには、参加いただく本人が楽しく、やりがいをもって取り組むことが一番です。

好きなこと、一緒に見つけましょう!!

## 地域活動支援センター

26年度は、前年度にも増して利用者さんが主体的に地域活動支援センターともを活用する様子が見られました。忙しい就労で疲れてふさぎ込みがちだった方が、イベントでの綿あめ販売という仕掛けのもとで役割と楽しみを見つけ、余暇を充実させてストレスを溜める事なく就労を継続できたり、何年も仕事ができなかった方が、慣れ親しんできた地活のほっぷでなら仕事をできるかもしれないと、短時間からの就労を希望して一步を踏み出せたり...というように、以上はごく一部の事例ですが、地活の機能が利用者さんたちに浸透して、うまく活用できるようになってきています。職員は利用者さんの様子を常に見守り、必要があれば声がけをして気持ちを聞くよう心がけています。そういう基本的な支援がご利用者さん自身の力を引き出し、前進のお手伝いになっていると感じています。また大変嬉しいことに、お近くに住まわれている方からマッサージチェアをご寄付頂きました。夕方には仕事帰りの利用者さん様たちが癒しを求めて来所し、順番待ちになるほどの人気です。マッサージチェアを囲みながら皆さんの会話も弾み、今川センターは一層賑やかになりました。私たちは感謝の気持ちとともに



## 居宅介護支援事業

居宅介護支援事業では介護保険の要介護認定を受けられた方の居宅サービス計画書を作成しています。また、介護を必要とする方が適切な介護サービスを利用できるよう、本人や家族の要望を伺いながら居宅サービス計画書の作成や見直しもしています。

平成26年度は、浦安医師会が推進する在宅クラウド（多職種にわたる医療介護連携システム）を導入し、在宅診療を望まれた利用者様が安心して在宅生活を送る事が出来るよう、様々な支援を行いました。在宅クラウドを導入したことで、在宅診療医師や病院の担当医、訪問看護師、薬剤師、ケアマネジャー等の相互の意思や行動を即座に知ることが出来、それぞれが情報を共有したことにより、利用者様がより安定した在宅生活を過ごせるよう支援することが出来ました。

今後も在宅診療を望まれる方が、益々、増加すると思います。これからも、利用者様がご家族と共に快適に暮らし、安定した在宅生活が送れるよう支援していきます。



地域の方たちとの繋がりを感じました。夏休み期間には、浦安市市民活動センター主催の「夏休みボランティア」というイベントのボランティア受け入れ団体となり、市内の大学生や高校生の皆さん等多くのボランティアさんにご活躍頂きました。市内大学のボランティアさんと仲良くなった利用者さんたちが、連れ立って大学の文化祭に遊びに行き、交流が地域へと広がっていました。地活には、たくさんのボランティアさんがいます。今年もボランティアさんの活躍に大いに期待をしています。

27年度は更に、利用者さんの主体的活動を促し、地域とさらに連携していけるように努力します。また、ボランティア育成にも注力し、普及啓発活動にも努めて参ります。支援を必要としているのに、未だに支援を受けられていない方、社会資源に出会っていない方々に「地域活動支援センターとも」の存在をお知らせしたいと思っています。具体的には、これまでの地域イベントへの参加やイベントの主催はもちろん、インターネットや市内媒体を活用しての広報活動、地域の民生委員の皆さんと連携した情報の発信を行っていきたくと考えています。



## 日中一時支援事業

ふありを利用している保護者の皆さんからも「長期休み中に午前中から預かってもらい、その後いつもの療育に参加できる方法があったらうれしい」と意見をよせていただき、少しずつ開設時間も長くなってきた日中一時支援事業。

制度に合わせるのではなく、利用いただく皆さんの生活に合わせて使いやすさを追求しています。療育も日中一時に移行できるものは移行しました。その結果、気になる療育が一つでも多く受けられたら利用者本人の選択肢が広がることになります。

常に控えめに「縁の下力持ち」的事業として、今年もがんばります。

## 浦安市障がい者等

### 一時ケアセンター

浦安市民の緊急時にセーフティーネットとして位置付けられている一時ケアセンター。平成25年6月から制度移行し、日中一時支援事業と短期入所、そして今までどおり浦安市のサービスとして緊急一時預かりも実施しています。

平成26年度は多くの緊急に対応し、その役割も果たせた一年でした。浦安市には多くの資源ができ利用者の皆さんはサービスを選んで利用できるようになっています。しかし、重度の障害をお持ちの方や、強度行動障害といわれる方にとっては使える資源が大変少なくなっている現実があります。地域で暮らし続けていきたいと考えているご家族にとって、利用者ご本人が安心して過ごせる場としても機能できたと考えています

また医療的なケアが必要な方も今年度は多くご利用になりました。

平成27年度も24時間365日、いつでもご利用でき、緊急時だけでなく将来の自立に向けた短期入所のご利用や小さなお子さんも少しだけお母さんと離れてとまる練習が出来る場、色々な人と過ごすことを体験する場など、ひとりひとりその目的をもった利用ができることもお伝えできたらと考えています。日頃から慣れた場所であれば、いざという時にご本人も保護者も安心して預けることができます。

様々な障がいのある方、難病の方、医療的なケアが必要な方が利用しやすいセンターをめざして、今年度も事業に取り組みたいですと考えています。



## 後援会「ともと歩む会」のお知らせ

新しい年度を迎え、お元気にお過ごしのことと存じます。  
三寒四温と言いますが、寒暖の差が厳しい年度末でした。  
体調を崩された方もおられたたのではと案じております。  
ともと歩む会では、昨年度の会員の皆様からの会費とご寄  
付並びにイベントでの収益により、金十万円をパーソナル・  
アシスタンスともに寄付させて頂きました。  
会員の皆様、ありがとうございました。  
そして、27年度も一緒に“とも”を応援していきましょう。  
今年度も支援の輪へのご参加をお待ちしております。

### 「ともと歩む会」申し込み方法

- ◆年会費は 3,000 円です。
- ◆都合上、4 月に更新とさせて頂いております。
- ◆4 月発行のとも通信に振込取扱票を同封させて頂いております。

口座番号・郵便振込先：00120-0-536557 / 名 義：中田光昭

## 「とも」を支えてくださる方々

2014.12.6 ~ 2015.3.31 現在 (五十音順・敬称略)



### 社会福祉法人 パーソナル・アシスタンス とも へのご寄付のお願い

社会福祉法人となっても、その財源は今までも何も変わらない現実です。皆様からの寄付は現在行っている社会福祉事業に役立らせていただきます。皆様のご協力をお願いいたします。なお、「とも」への寄付は、以下の税制上の優遇措置があります。

- ◆個人の方は、所得税に係る「寄付金控除の対象」になっています。
- ◆法人の場合は、一般の寄付金とは別枠で損金の額に算入することができます。
- ◆相続や遺贈によって受けた財産を寄付した場合は、その分は相続税の対象外となります。

寄付金 振込先 京葉銀行 新浦安支店 普通口座 5429331  
口座名義：社会福祉法人 パーソナル・アシスタンス とも  
理事長 西田良枝

発行：社会福祉法人 パーソナル・アシスタンス とも  
〒279-0022 千葉県浦安市今川1-14-52  
<編集後記>  
今号より「相談 ふあり」の電話番号を掲載、「児童発達  
ふあり」と「基幹相談」はメールアドレスが新しくなっ  
ております。宛先ご確認の上お気軽に御相談下さい。【S】